
タイトル：私達を生かす日—安息日(個人的な礼拝の回復)

聖書箇所：出エジプト記20章8～11節、申命記5章12～15

【同じ1日なのに】

新型コロナウイルスの事態が、なかなか収束する様子を見せない状況で、皆さんはどの様にお過ごしでしょうか。私は時間の使い方が少し変わった様に思います。今まで、教会によく業者さんなどが来られて、その様な方々の対応でよく時間を使わせて頂いていたのですが、コロナの影響でその様な業者さんも「電話で要件を伝えます」とか「メールで送っておきます」という事で、その様な方々とあう時間が減りました。そのゆえに、少し本を読んだり、家族との時間が増えた様な気がします。同じ24時間のはずで、同じ1週間だったはずなのに、3ヶ月前とは全く違う過ごし方をしている様に、思います。もう3ヶ月前にどの様に過ごしていたかを忘れてしまった人もいるのではないのでしょうか。

堀越先生は、生前、私によく「時間の使い方」について何度も教えて下さいました。また、皆さんも堀越先生より時間の使い方について教えて頂いた方も多いのではないのでしょうか。堀越先生は「安息日を聖く守る」というメッセージの中で、人生には2つの時間があると語られました。(ノアの箱船記念館のホームページの動画に堀越先生の動画がありますので、見て頂きたいです)。そのメッセージの中では、

①自分の命のため、自分の生活の為に使う時間 ②創造主に招かれている日がある と言われました。

私達は、皆、同じ24時間を過ごしていますし、週7日を過ごしています。でも、堀越先生のお話では、その中でも、自分の為に使う時間が許されている反面、主の為の日があると語られました。

【安息日について】

それを裏付ける聖書の言葉が出て聞きます。それは出エジプト記20章です。出エジプト記20章ではみなさんもよくご存知の様に十戒について語っています。創造主が人間に対して守る様にと与えてくださったルールというか心や行動の規範を示しています。その十戒のうちの4つが創造主と人間の関係、そして残りの6つが人間同士の関係について語られています。その創造主と人間との関係の4つ目に「安息日を覚えて、これを特別な日として聖く過ごしなさい。6日間は働く日であるから、この日に働きなさい。7日目は、主である創造主の為に過ごす安息の日であるから、他の日の様に働いてはならない。」と書かれています。続けて11節では「主は天地創造の時、6日間働かれて7日目に休まれた。それで主は安息日を祝福してこれを聖別された。」と書かれています。堀越先生は、この7日目の安息日の事を、創造が完成した落成式に招かれた様なものと語っておられます。

これを読んでみると、堀越先生がおっしゃった様に時間の使い方の中に自分の為に使う時間と、創造主が区別する様におっしゃった時間がある事が分かります。そしてその創造主を覚える安息日を、創造主ご自身が祝福された、聖別されたと書かれています。十戒で初めて安息日を守る様に語られた時、聖書では創造の出来事について言及しています。これは、被造物である私たちが、私達を造って下さったメーカーである創造主を覚える日が必要だという事です。

では、なぜ、安息日に創造について覚える必要があるのでしょうか。信仰生活入門の本を読んでみると、安息日(聖日)を守ることの次の項目には大抵偶像礼拝を慎むことについて書かれていることから分かります。堀越先生が書かれた教会生活入門でもそうですが、創造を覚えるという事は、私達を造られた方を覚えるという事です。私たちがそれをやめてしまうとどうなるのでしょうか。その結果は聖書が証明しています。自分たちで偶像を作り、それを拝む生活になってしまいます。それに支配されてしまう生活になってしまいます。

【礼拝をやめた民】

礼拝を大切にしないことが起こると生活は一変します。それはクリスチャンでも同じです。その見本がここに立っています。皆さんにも前お話した様に、私もクリスチャンホームで生まれました。もう習慣の様に日曜日の礼拝に行ってい

ました。好きとか嫌いとか感情なしに習慣化していたのです。それも感謝だったのですが、大学生になったときに、創造主よりも優先にする事が見つかりました。それは私にとってはパラグライダーでした。自由に空を飛べる事が礼拝する事よりもとても魅力的でしたし、価値あるものと思ったのです。ですから、3ヶ月～4ヶ月教会に行きませんでした。そして心の中は、創造主を覚える事よりもどうすればもっとうまく空を飛べるかということに心が向いていたのです。パラグライダーが偶像になってしまっていたのです。その後、パラグライダーの滑落事故を目の前で見て、日曜日の礼拝に再び戻る様になりました。でも、私は1回では終わりませんでした。大学3年生の時に、日曜日、アルバイトを入れました。その時には、心の中には創造主よりも「お金」という偶像は入り込んでいたのです。その様な事を経験しながら、人間の心は本当に弱いんだという事を思い知らされました。私達が、創造主が準備してくださった日に心を休めて、創造主はどういうお方なのか、私達が信じているお方はどういうお方なのか、そして私たちはどんな存在なのかにしっかり心を向けないと、あっという間に私たちの心には偶像が入り込んできます。創造主以外のことに目をやってしまいがちです。イザヤ58章13節にも「『もしあなた方が安息日を聖く守り、その日に自分勝手な事をしないなら、あなたは主によって喜ぶ事を知り、私はあなたを安全な場所に導き、あなたを約束の地で養う』と主は仰せられる。」と語っています。

私たちが安息日に主を覚え、主に心を向ける時に、主が養ってくださると約束して下さいました。

堀越先生も牧師になる前にクリスチャンになった時から、この時間の優先順位を決めて、聖日には仕事をしないと決めたら勤勉になったと語って下さいました。この時間も主が与えてくださったものですから、主の法則通りに過ごそうとする時に全ての事を主が養って下さいます。

【もう一つの過ごし方】

実は安息日の過ごし方としてもう一つ大切な事があります。それは申命記の5章に書かれています。先程の出エジプト記では、創造の7日目に創造主が休まれた事を覚えよと書かれていました。しかし、同じ十戒が書かれた**申命記5章**には別の理由も書かれています。**5章15節「あなたが昔、エジプトの国で奴隷であった時、主があなたを驚くべき奇蹟によって救い出してくださった事を覚えなさい。だから、主である創造主は、その事を覚える日として安息日を守る様にと命じられた」と**書かれています。ここでは、イスラエルの民に創造主がしてくださった事を覚えなさいと書かれています。エジプトでイスラエルの民が奴隷であった時、イスラエルは本当に苦しい生活をしました。400年近く奴隷生活をしていたのです。自分のお父さんもおじいちゃんもひいひいおじいちゃんも奴隷生活をせざるを得ませんでした。エジプトの人々から虐められ、ひどい事をされていましたが、そこか

ら逃げ出す方法も、自由になる機会もありませんでした。あの意味、失望の中、諦めの中に生きていたのです。生きていても、生きている様ではありませんでした。最低限のものだけが与えられ、死なない様にしているだけの存在でした。失望でした。あきらめでした。でも、そこに創造主が介入されました。奴隷から自由の身となったのです。人間に従うだけの奴隷から主の選びの民としてのアイデンティティを回復する事件が起こります。それが出エジプトの事件です。申命記ではその事件を思い起こす日として安息日を守る様に語っています。奴隷から自由となったこの出エジプトをもっと簡単な言葉で表すと「墮落から救い」という言葉に置き換える事ができます。

私たちも墮落の底にいました。私たちも罪の中で死ぬしかなかった存在でした。私たちの心の中では何かにつかまらなかったけれども、何を掴めば良いか分からずずっと生きてきました。でも、その人生に介入して下さったのは、創造主です。私も高校生の時に、両親の離婚問題で暗黒の時代を過ごしました。でも、そこに創造主が介入して下さらなければ、おそらく私は他の道に入っていたでしょう。好き勝手に生きていたと思います。しかし、創造主は介入して下さいました。私の人生に入り込んで下さいました。そして、破滅ではなく、自分の罪を赦すだけでなく、天国への道まで開いて下さいました。安息日(聖日)はそこに目を向ける日です。

安息日は、ヘブライ語でシャバと言います。これは、休むとか中断するという意味です。よくヤクザの言葉で社会生活の事をシャバと言いますが、安息日はそのシャバの事を休む・中断して、創造主に心を向ける日です。

【コロナの中で思われる事～個人の礼拝の回復】

今、世界の教会やクリスチャンは振るわれています。今まで集まって捧げていた礼拝が自由に捧げられない状態にきています。韓国の教会では、韓国のキリスト教史上初めて、礼拝堂での礼拝ができない事態となりました。アメリカでも同じです。でも、ひっくり返して考えてみると、礼拝堂に行けば礼拝を捧げられる環境がありました。しかし、初代教会もそうですが、集まって礼拝を捧げられない時は起こり得ます。その時こそ、私たち一人一人が、個人的に、置かれた場所で、創造の御業に心を向け、そして自分がどこから救われたのかを個人的に味わう時になりましょう。

現代人は非常に忙しい日々を送っています。しかし、今回のコロナの影響でそれを全てストップしてステイホーム。全ての事をしばらく離れる様に語られています。その中で個人的に創造主との関係に目を向けていきましょう。

・あなたは自ら生まれた存在ではありません。創造主は、あなたを尊い存在として造られました。そしてあなたを生かす為に全ての環境を整えて下さいました。その御業に心を向けましょう。

・そして救われた事に目を向けましょう。